文学館だより

令和７年　３月１日
若山牧水記念文学館
TEL　0982－68－9511
文責　日髙　第107号

収蔵資料から

其の98　第12歌集『渓谷集』

発行日：大正７年５月５日
発行所：東雲堂書店
収録歌数：３０４　首

第１２歌集『渓谷集』は、大正６年秋から翌７年２月まで約半年間の歌が収録されています。最初の「秋の曇冬の晴」６２首のほかは旅中での歌で、それも大作が多いのが特徴です。「秩父の秋」は６年１１月秩父に遊んだ時、「上総の海」は同月千葉県大原海岸での作、そして「伊豆の春」は７年２月に伊豆土肥温泉に出かけた時の歌です。

『渓谷集』は旅中の自然詠が多いという題材のためもありますが、歌が落ち着きと清澄さを増し、牧水晩年の歌風の完成期に入りつつあることを思わせます。

なお、第１１歌集『さびしき樹木』が出版社の都合で遅れたため、『渓谷集』が２ヶ月ほど先に発行されています。

（参照『若山牧水全歌集』）

牧水歌碑めぐり

其の99　恋沢ガーデン展望台（群馬県）

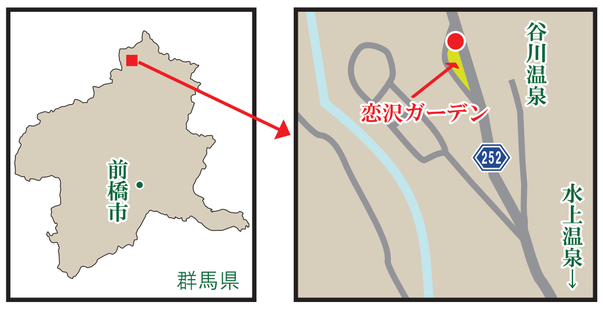
谷川と
名にこそ負へれ
この村に
聞ゆるはただ
谷川ばかり

若山牧水

建立日不明

大正７年１１月、牧水は利根川の上流を目指して旅に出ます。１６日、水上温泉から湯桧曽まで遡り、転じて谷川温泉へ向かいます。他に客はおらず、村の女性たちが野菜を背負ってきては洗ったりしていました。客がいないのは、村がスペイン風邪（インフルエンザ）の大流行中だったからです。ゆっくり温泉を楽しみながら二泊した牧水は、滞在中にこの歌を詠みました。

歌碑は谷川温泉地区に入ってすぐ、雄大な谷川岳が眺められる休憩所に建てられました。谷川温泉には、この他６基の歌碑があります。

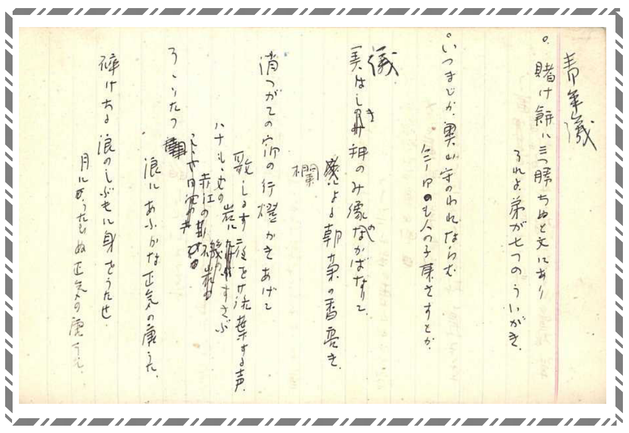


（参照『若山牧水全国歌碑集』）

企画展『文学ノート拝見』　必見です　3月1日～30日

牧水が延岡中学校時代に携帯していたであろう１冊のノートが残っています。このノートには270首を超える短歌ほかの作品が書き留められています。目を見張るのは、推敲の跡を残しているところです。幾度も推敲を重ねている箇所も見られます。さらには全集に収録されていない作品もあり必見です。

今回、ノート全ページを公開するほか、ノート現物も展示します。歌人若山牧水の原点とも言える延岡中学校時代を覗いてみませんか。



企画展　『文学ノート』拝見
　会　期　　令和７年３月１日（土）～３月30日（日）
　会　場　　若山牧水記念文学館企画展示室
　休館日　　３月３日（月）　10日（月）　17日（月）　24日（月）

大辻隆弘さん、高山邦男さん　坪谷へようこそ

第29回若山牧水賞授賞式ならびに受賞祝賀会が１月30日（木）に開催されました。今回の受賞者である大辻隆弘さん、高山邦男さん、おめでとうございました。

翌31日（金）は、お二人を坪谷にお迎えして牧水生家と文学館を見学していただきました。

大辻さんは牧水と誕生日が同じ?!

三重県出身、未来短歌会理事長を務める大辻隆弘さん（写真右）の誕生日は戸籍上は８月25日ですが、生まれたのは前日24日だそうです。夜に生まれたので翌日の日付で届けをされたらしく、間違いなく牧水と同じ８月24日生まれでした。

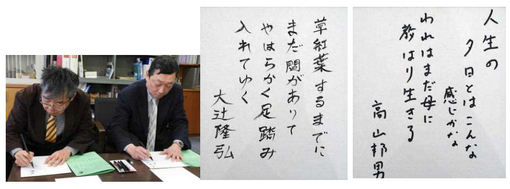
高山さんは東京牧水会会員!!

東京都出身、心の花編集委員を務める高山邦男さん（写真左）は東京牧水会会員でいらっしゃいました。東京牧水会は私ども日向若山牧水顕彰会と同様、全国牧水顕彰会に所属する一団体です。牧水のこと、東京牧水会のこと、お話くださいました。

（牧水公園）

（牧水生家２階）

（文学館展示室）



（受賞歌集にサインと色紙浄書）

歌い継がれる牧水

仕事がら多くの短歌に出会います。「牧水」と歌われていれば、つい読み返してしまいます。

あくがれとふ日向のお酒にほろ酔ひて心いつしか牧水の気分
第１回青の國若山牧水短歌大会入賞　牛ノ濵　桂風

また今日も夫は酒飲みくだを巻くキメの一言「牧水を呼べ」
第４回青の國若山牧水短歌大会入賞　木内　美由紀

尾鈴山の作文ほめて担任は教へくれたり牧水の歌
第８回青の國若山牧水短歌大会入賞　大賀　康男

牧水と海のある街、あなたにも花丸つけて婚を決めたり
第11回青の國若山牧水短歌大会入賞　日髙　尚子

字は体を表すと思ふ牧水はまるくやはらか満月のやう
第14回青の國若山牧水短歌大会入賞　片伯部りつ子

牧水の歩く速さを思ひつつたぶんそれよりゆつくり歩く　大口　玲子

牧水のしゃしんのしたに牧水のばいほどいきたるからだをはこぶ　佐佐木幸綱

ウイルスも〈自然〉なんだよ、と言うだろう牧水ならば海をながめて　吉川　宏志

病重き昭和三年の作にすら死のうた一首あらぬ牧水　伊藤　一彦

紹介しきれなかった方々、どうぞお許しください。
「牧水先生が詠んだ歌」はいつも引いていますが、
このように「牧水を詠んだ歌」も多く目にします。
「牧水を詠んだ歌」企画展もおもしろいかもしれませんね。

訃報　塩月 眞氏　これまで大変お世話になりました

若山牧水延岡顕彰会元会長、相談役塩月 眞さんがご逝去されました。牧水祭に毎年お越しくださり、朗詠をご披露いただいてきました。昨年の牧水祭にも母のうた「日向の国むら立つ山の」と酒のうた「人の世にたのしみ多し」をご披露いただきました。また塩月さんは東郷出身というご縁も重なり私たちにとってとても近い存在でありました。これまで大変お世話になりました。

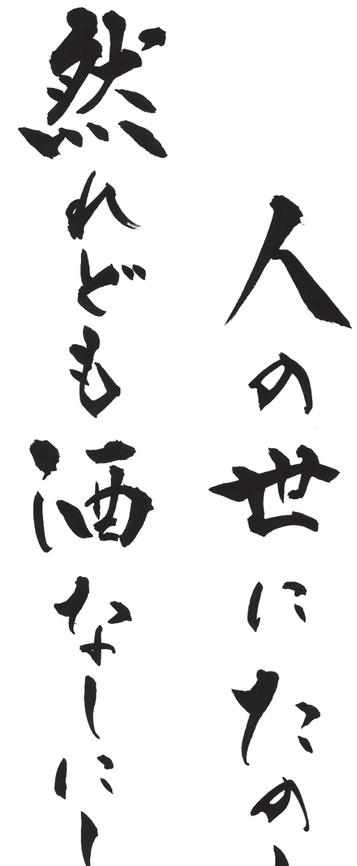
牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

人の世にたのしみ多し然れども酒なしにしてなにのたのしみ
ひとのよに　たのしみおおし　しかれども　さけなしにして　なにのたのしみ

「牧水と言えば酒でございます。私も牧水のために酒を飲むようになった（会場からの笑い声）・・・酒の歌を一首歌わせていただきます。」と言い、昨年の牧水祭「牧水を偲ぶ会」にて朗詠を披露された塩月 眞氏。牧水を愛して止まない塩月氏が選んだ最後の一首がこの歌であった。

来たる令和７年度は若山牧水生誕140年、若山牧水記念文学館開館20年目を迎えます。牧水先生の偉業については言うまでもありませんが、誕生から幼少期を過ごした坪谷時代、若山牧水記念館開設から文学館20年の歴史を後世へ残していくことは私ども生誕地の務めだと思っています。記念の年を盛り上げていきます。みなさまのご支援ご協力をお願いいたします。



企画展『文学ノート拝見』

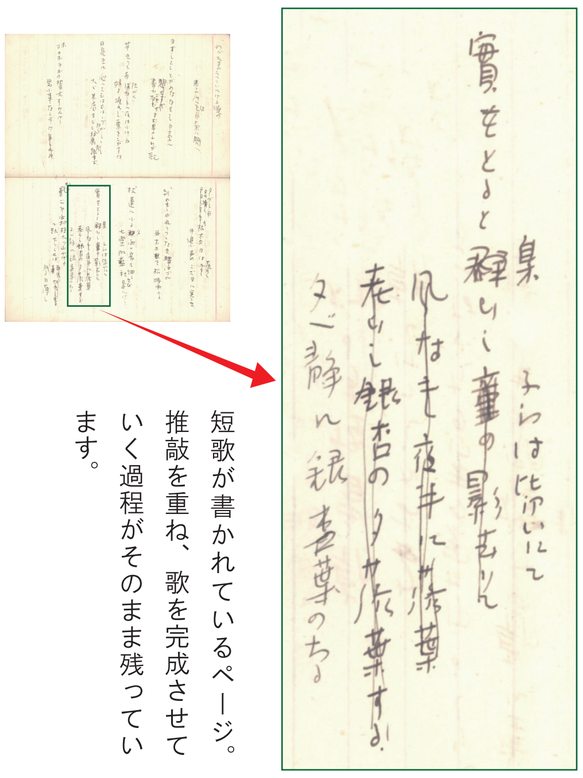
歌人牧水の出発点を探る

【会期】３月１日（土）～３月３０日（日）
【会場】企画展示室

牧水は延岡中学時代に短歌を作り始め、多くはありませんが随筆も書いています。この時代に作った作品を書き留めた「文学ノート」が文学館に残っています。

ノートには推敲を重ねた跡がそのまま残されており、作品を完成させる過程を追跡することができます。また、全集等に収録されていない作品も書かれています。

今回、普段見ることのないノート全ページをパネルにして公開しています。歌人若山牧水の原点に触れる絶好の機会です。



短歌が書かれているページ。推敲を重ね、歌を完成させていく過程がそのまま残っています。

若山牧水記念文学館
〒883-0211　宮崎県日向市東郷町坪谷1271番地
〈ホームページはこちらから〉

■利用案内■
【開館時間】９：００～１７：００（入館は１６：３０まで）
【休 館 日】月曜日（祝日は除く）　年末年始（１２月２９日～１月３日）
【入 館 料】小・中学生／１００円　高校生以上／３１０円（２０名以上の団体は２割引）
【お問合せ】TEL　0982-68-9511 FAX　0982-68-9512【公式ＨＰ】https://www.bokusui.jp